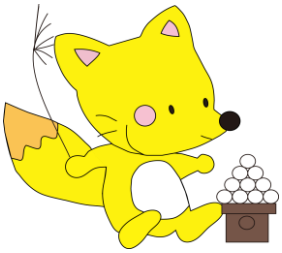
令和２年度　９月号

十二月田小だより

川口市立十二月田小学校
川口市朝日１－１１－１
TEL (048)222-4383
FAX (048)222-9388

学校教育目標　　進んで学ぶ子　仲良くできる子　たくましい子
児童数　男子４８６名　女子４６１名　計９４７名
しっかりと聞き・わくわく未来を語り・すすんで学び・だれにも仲良くできる　しわすだっ子



愛護よく回天の力あり
～　「言葉」の力で「自信と意欲」を　～

校長　石井　宏明

第1学期終業式から3日あけての第2学期始業日。

しわすだっ子は、気持ちの切り替えが上手なのですね。新たな気持ちで登校、学習・生活している姿を見て、そのように感じました。ご家庭での過ごし方がよいのだと改めて皆様に感謝いたします。

過日お渡しいたしました通知票。それには、この第1学期に、子供たち一人一人が一生懸命努力した（ご家庭の皆様も）こと、今後さらに努力、意識して取り組んでほしいこと等、お子様のあしあとの一部をお示ししてあります。ご覧いただき、「自信」や「やる気」の出る言葉をかけていただいたことと存じます。

今さら私が申し上げるまでもありませんが、「言葉」というのはなかなか難しいものです。

使う言葉一つで、人を鼓舞し、奮い立たせ、意欲を呼び起こしたりしますが、反対に意欲・気力を削ぎ落としてしまう一面もあります。

親しい友達同士、家族、教師と児童の親しい関係であっても、相手を大切に思い、人間関係を潤いのあるものにしていく意味では、使う言葉選びや言葉の使い方には心配りや気配りが必要になってまいります。

私は、「言葉の響きは命の響き」だと考えております。

言葉がいかに私たちの生きる根源、泉になっているか、本当にすばらしい力になっているのです。私自身も、子供たちの言葉、朝のあいさつ一つ、廊下ですれ違ったとき、教室を訪問した際の子供たちの一言、笑顔で（時には視線や背筋を伸ばす姿）うれしくなり、元気が出てまいります。

道元禅師の言葉をお借りすれば、「愛護よく回天の力あり」ということです。

愛情のこもった優しい言葉は、時には回天（天地をひっくり返すほどの力を発揮する）するというのです。

「子供は誉めて伸ばそう」と先生方にもお伝えしていますが、誉めてばかりではうまくいかないのも現実です。

「誉める」ことが大事であるのと同時に、「叱る」ことも大事であると考えております。

子供たちをよりよく成長させる、自己実現させることが大事なことであり、「誉める」「叱る」はその手段の一つであることは言うまでもありません。

その根本は、子供たち一人一人に愛情（教育愛）をもって接し、本気になって子供たちを育てているかどうかというところにあるのではないでしょうか。

「子供の成長のために本気になる」という、常に一貫した姿勢で誉め、叱ることが大切です。その「本気さ」が「厳しさ」を生み、同時に「優しさ」や「あたたかさ」を生むのだと考えます。それが、言葉になって表現され、子供たちの心に響くのだと考えます。それが「愛護（愛語）」になるのです。

学校・家庭・地域が一体となった 「しわすだファミリー」は、「愛護（愛語）」で、子供たちをはぐくんでまいりましょう。